

事例⑦ 言語活動の充実

小学校

中学校

高等学校

★ポイント

- 「言語活動の充実」が求められている背景や学習指導要領解説「第五節1 児童の言語環境の整備と言語活動の充実（小学校）」の内容について理解を深め、学校の現状と課題を共有化する。
- 教科や学年の枠を超えて、言語活動の充実について検討し合うことで、授業の改善に向けての新たな視点を得る。

■関連する視点：視点3－問題の発見と共有 視点7－実践的な指導力の向上

研修の計画

◇ 目的

新指導要領改訂のポイントの一つである「言語活動の充実」について理解を深め、指導に役立てる

◇ 所要時間 ：約 70 分

◇ 方法・形態：演習

◇ 対象者 ：全職員

◇ 事前準備 ：学習指導要領解説に目を通しておく。

◇ 展開

内容	概要及び留意点	資料
1 研修のねらい等についての共通理解 (5分)	・研修のねらいと研修の進め方について知らせる。(講師または、学習指導主任)	
2 課題意識をもつ (15分)	①学習指導主任より、「言語活動の充実」が求められている背景について説明を聞く。 ②学習指導要領解説「第五節1 児童の言語環境の整備と言語活動の充実(小学校)」について読み合わせを行う。	・学習指導要領解説
3 課題解明に向けての具体策の検討 (30分)	①学習指導要領国語科の言語活動例及び解説p54に示された例示を基に、各教科の特質に応じて実践が可能な言語活動を、それぞれの教員が考え、付箋に記入する。 ②付箋を貼りながらアイデアを発表し合う。	・付箋
4 情報交換 (15分)	①各担当教科で実践が可能かどうか検討する。 ②グループで出した意見を発表し合う。 ③実践可能である内容について発表し合う。	
5 振り返り (5分)	・振り返りシートに参考になったことや感想を記入する。	・振り返りカード

◇ 評価

「言語活動の充実」に向けて自校の現状と課題を共有化するとともに、今年度の実践事項を確認することができたか。

研修の進め方

研修のねらいの周知

研修のねらいについては、事前に知らせておくようにします。また、各自が今までに行った取組などをメモしておくよう伝えておくことも、話合いの活性化につながります。

説明（学習指導主任からの話）

PISA調査から明らかになったことや全国学力学習状況調査などの結果から見えてきた課題などを簡潔に説明するようにします。併せて、自校の実態や課題等も確認します。

※資料等の準備が難しい場合には、学習指導要領解説総則編の第1章総説の中から、言語活動の充実に関連する部分を説明することも考えられます。

言語活動が求められている背景

右に示したような内容について確認するとよいと思われます。

※平成22年2月に、独立行政法人教員研修センターより「言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫」が発行されました。目を通しておくと参考になるとと思われます。

【資料の例】

- 「言語活動」の充実の背景
- 「言語活動」とは何か
- 「言語活動の充実」のねらい

学習指導要領解説の読み合わせ

全員で学習指導要領（解説）について読み合う機会はありませんでしょうか。そこで、一方的な説明とならぬよう、3～4人程度で学習指導要領解説の読み合わせを行うなど、参加者が活動する場面を設定するように配慮します。

実践が可能な活動を付箋に記入

アイデアを考えるときは、拡散思考をすることが大切です。例えば10分以内で最低7つ以上など、負荷をかけて行うことがポイントです。

アイデアの分類・整理

付箋を貼り付ける際には、自分のアイデアを簡潔に説明するように指示します。どんなアイデアであっても批判することは厳禁です。

期待される振り返り

- ・学習指導要領解説を全員で読んだことで、重要な点を確認することができてよかったです。
- ・いろいろな教科の実践を聞くことで、今後の取組の新たなヒントが得られました。

工夫

- 日常の実践につなげるために、各自振り返った内容を発表し合う活動を設定します。
- 研修の効果を高めるために、実践した内容について検証する機会を設定します。

参考資料・情報

- ・独立行政法人教員研修センター「言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫」平成17年
 - ・文部科学省「初等教育資料」850号、859号、「中等教育資料」890号
- ※使用する資料について情報提供も可能です。